

1. 葛西用水桜並木保全管理計画を策定しました

葛西用水の桜並木は草加市を代表する観光資源となっています。しかし、植えられた桜は約40年が経過し、老木化が目立ってきています。ソメイヨシノの街路樹としての寿命は約60年とも言われ、今後桜並木を維持していくためには何らかの方策を講ずる時期にきています。

樹木調査や土壌調査からは、並木全体の状態として「要注意」であることが分かりました。特に、葛西用水の水位に連動して地下水位が上下し、それが桜の根腐れにつながり、枝の先端に枝枯れを引き起こしていること。また、この根腐れや枝枯れ箇所より腐朽力の強いキノコの菌が侵入し、桜内部に腐朽を引き起こしていることが推測されます。

さらに、この桜並木では平成25年に外来種のクビアカツヤカミキリが発見されました。これまで、このカミキリムシの摂食により樹勢の低下した桜20本以上をやむなく伐採しました。

今後も、老木化或いはカミキリムシの被害による伐採は避けられず、伐採により生じた空間をどうするのか、併せて地下水位の影響や狭い植栽間隔の問題等をどう解決するのが課題となっています。

この計画は、以上を背景に、この桜並木を将来に引き継いでいくための方策を定めたものです。平成28・29年度に調査を行い、平成30年度には地域の皆様と意見交換を行いながら計画をとりまとめました。

2. 保全管理計画の2つの柱

- 桜並木を計画的に将来に継承していくための更新計画
- 更新と並行し、既存の桜を適正に管理し、美観を維持するための維持管理計画

3. 更新計画

更新の考え方

- 更新は桜並木の急激な変化を避けるため、15年程度をかけて行います。
- 一部を除き、すべての桜を伐採し、新しい品種の桜に植え替えます。
- 伐採は、樹木調査の結果がC判定の桜からA判定の桜の順に行い、ある程度の植栽スペースが確保されてから新植を開始します。
(C判定：不健全、B判定：被害が見られる、A判定：健全か健全に近い)
- 新植の植栽間隔は、現在の6～7mから拡げ、10m以上を確保します。
- 新植に併せ、地下水位の影響を少なくするために基盤改良を行います。
- 更新と並行して「桜並木の魅力アップ」を行います。

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目
桜並木の更新 (伐採+基盤整備 +新規植栽)	C判定の桜を伐採				B判定の桜を伐採						A判定の桜を伐採				
	(新しい桜を植栽するための準備期間)				新しい品種の桜を植栽										
桜並木の魅力アップ (新規植栽)	桜見本ゾーンの整備				橋詰の魅力アップ										
	(ソメイヨシノ類似品種を新規植栽)				(シダレザクラを新規植栽)										

更新の全体計画



計画対象地

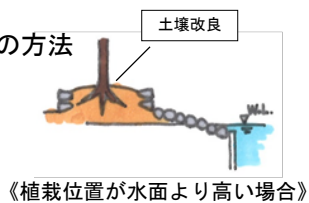
(東京外環自動車道から
草加八潮境までの約2kmの区間)

総合判定結果 (444 本)			
健全度		本数	比率
A	健全か健全に近い	207	46.9%
B1	注意すべき被害がみられる	103	23.2%
B2	著しい被害がみられる	110	24.8%
C	不健全	22	5.0%
CC	極めて不健全	2	0.4%
合計		444	100.0%

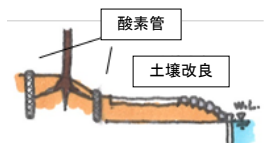
樹木調査の結果

(平成28・29年度実施)

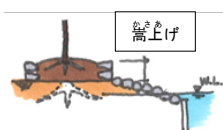
基盤改良の方法



《植栽位置が水面より高い場合》



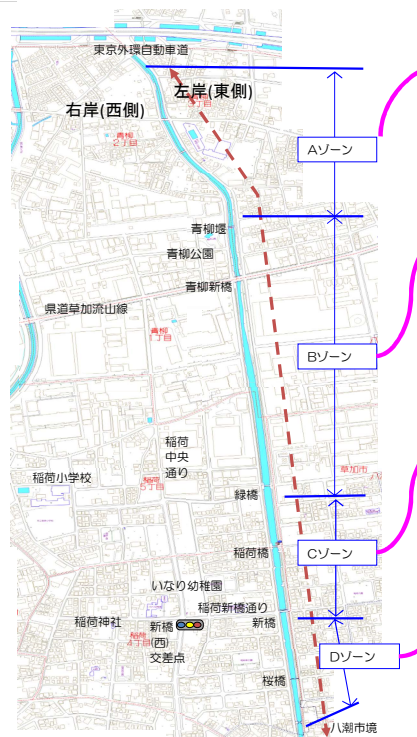
《植栽位置と水面との距離
が中程度の場合》



《植栽位置が水面に近い場合》

更新のゾーニング

桜並木を桜が植栽された時期、桜の健全度、カミキリムシの被害、「草加さくら祭り」の開催状況等により4つのゾーンに分けました。



A ゾーン…東京外環自動車道から青柳堰付近

- 新しく植栽された桜が多い区間
- ・ほとんどがA判定(健全か健全に近い)の桜
- ・4つのゾーンのなかで最も桜の健全度が高い区間



B ゾーン…青柳堰付近から緑橋

- 工場が隣接するとともにクビアカツヤカミキリの被害が多くみられる区間
- ・B判定(被害がみられる)の桜が最も多い
- ・C判定(不健全)の桜も多い
- ・4つのゾーンのなかで最も桜の健全度が低い区間



C ゾーン…緑橋から新橋(観光重点エリア)

- 草加さくら祭りのメイン会場となる区間
- ・A判定(健全か健全に近い)の桜とB判定(被害がみられる)の桜がほぼ同数



D ゾーン…新橋から八潮市境

- 住宅が隣接する区間
- ・A判定(健全か健全に近い)の桜がB判定(被害がみられる)の桜よりも多い

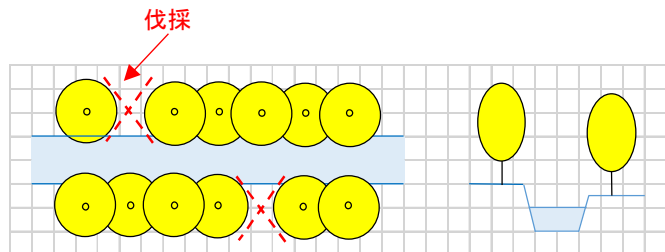


更新の方法

- 更新はB、C、Dゾーンを対象とします。(Aゾーンは当面行いません)
- 「草加さくら祭り」の会場となるCゾーンは、他のゾーンよりも時間をかけて更新します。

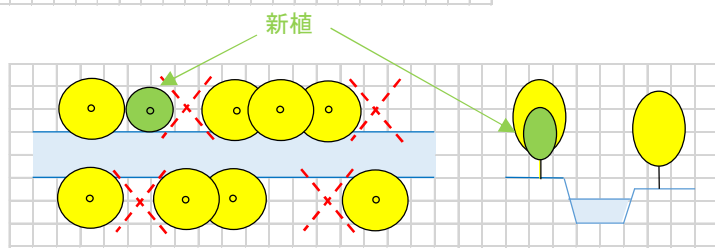
5 年目頃まで

- ・C判定の桜から伐採開始



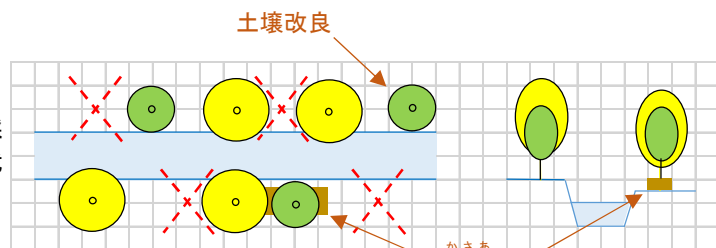
10 年目頃まで

- ・B判定の桜を伐採
- ・新品種の桜の植栽を開始



15 年目頃まで

- ・A判定の桜も伐採
- ・新品種の桜の植栽を終了



更新のイメージ

かさあ
高上げ

更新前後の本数			
	現況	更新後	備考
A ゾーン	45	45	更新の対象外
B ゾーン	225	100	
C ゾーン	98	70	
D ゾーン	74	70	
B～D ゾーン計	397	240	
合計	442	285	

3. 更新計画（続き）

代替品種の候補

桜の最も一般的な品種であるソメイヨシノについて、植え替えを機に違う品種に見直す動きが見られます。

特に市街地では、この桜が巨木化することから剪定を余儀なくされ、切り口から腐朽菌が入り落枝や倒木に至るケースも見られます。また、ソメイヨシノは桜の中でも「てんぐ巣病」等の病気に弱いとされ、生産量も少なくなっていると言われています。

ソメイヨシノの代替品種については、基本的に花の形、色、開花時期が似ており、かつ巨木化しない、病気に強いこと等が条件になりますが、ジンダイアケボノ、コシノヒガン等が候補となっています。

今後、候補となる桜を桜見本ゾーンに植栽し観察を行い、ソメイヨシノ更新の動向等もふまえ、最終的な品種を決定していきます。

魅力アップ

並木に付加価値を付け、また伐採により少なくなる花の量を補うために行います。

■ 桜見本ゾーンの整備

ジンダイアケボノを始めとするソメイヨシノの類似品種を試験的に植栽し、花の形、色、開花時期等を実際に観察し、ソメイヨシノに代わる新品种を選択する場として整備します。

また、桜の根元には試験的に低木や地被植物を植栽します。根元の踏圧を防止し、桜の開花時期以外にも花や葉を楽しむことが期待できます。

■ 橋詰の魅力アップ

桜並木の途切れる橋のたもとや休憩施設付近には、単調になりがちな並木のアクセントとして、市役所本庁舎前の仙台紅しだれ桜から接ぎ木して育てた「そうか桜」を植栽します。



ジンダイアケボノ
（大岡川プロムナード・横浜市南区）



花の違い

左がソメイヨシノ、右がジンダイアケボノ
ジンダイアケボノの方がやや紅色が濃い



桜の根元を飾る草花
踏圧防止の役割も
（大岡川プロムナード・横浜市南区）

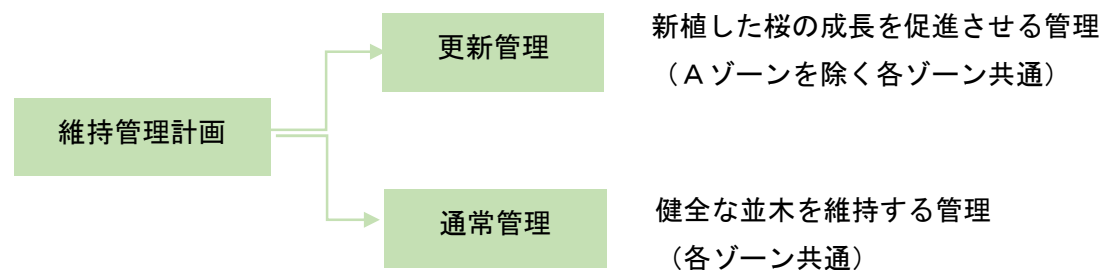


仙台紅しだれ桜
（市役所本庁舎前）

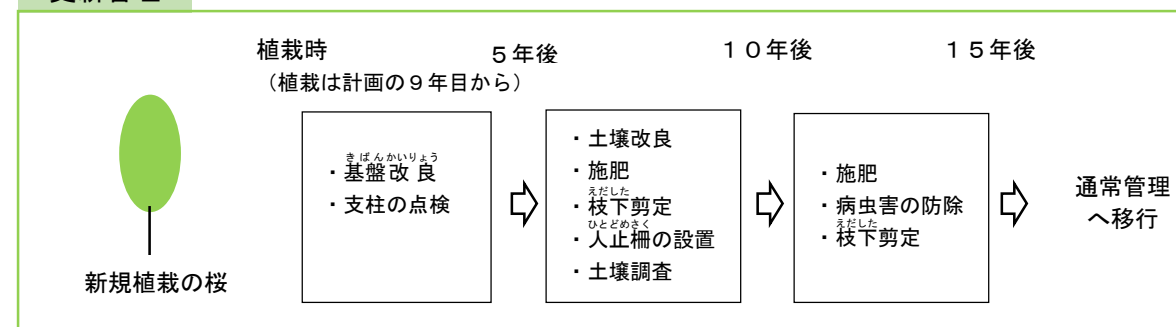
4. 維持管理計画

この保安全管理計画は、15年間にわたる長期の計画であるため、その間には更新（新植）する桜と更新まで生かしていく桜とが混在します。

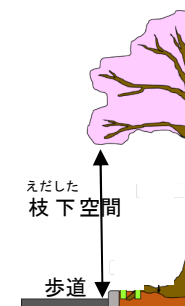
維持管理計画は更新（新植）直後から桜の成長を促進させる管理と、既存の桜を含めた桜全体について、健全な並木を維持する管理に分けて行います。



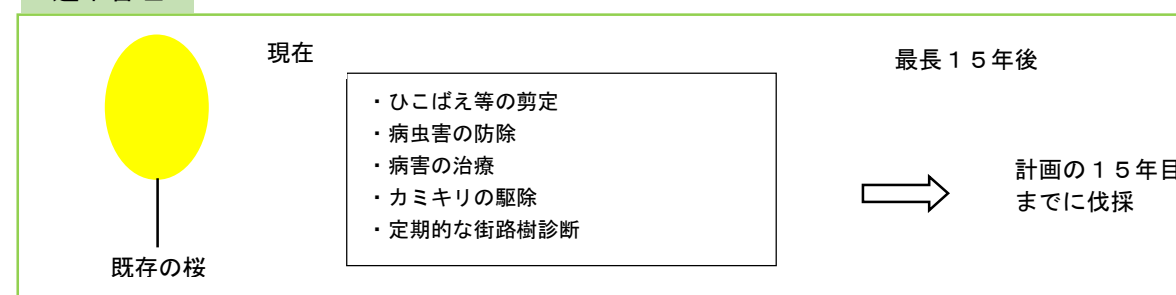
更新管理



枝下剪定：枝下空間をつくる剪定。桜並木両側の歩道の快適な通行機能を確保します
人止柵：桜根元の踏圧防止のために立ち入りを制限する柵で、必要に応じて設置します
土壌調査：腐食分、通気性、透水性等について調べます



通常管理



ひこばえ：幹の根元近くの根より伸びる小枝。健全な樹木の場合、放置すると樹勢を低下させます

5. 地域との協働

この計画の推進にあたっては、地域の協力が不可欠です。
地域と市との役割を整理します。

【地域にお願いしたいこと】

- カミキリムシの発見、成虫・幼虫の駆除
- 緑化推進活動を通じた除草・清掃
- 新規植栽樹木の傾きや支柱の点検



地域を対象とした
カミキリムシ駆除講習会
（協力：埼玉県生態系保護協会 草加・八潮支部）



クビアカツヤカミキリの成虫
（写真提供：埼玉県環境科学国際センター）

【市の役割】

- 桜の更新作業の推進及び進捗状況の広報
- カミキリムシの駆除
- ソメイヨシノ代替品種選択のための情報提供及び合意形成
- 関連事業（護岸整備等）との連携及び調整
- 剪定や土壌改良等の維持管理
- 葛西用水や桜についての勉強会や観察会等の実施

このニュースは今後、事業の進捗状況等をお知らせするために、年1回程度発行する予定です。
《問い合わせ先》 草加市役所みどり公園課 保全・育成係 電話048-922-1973